

峰寿司が見る香港市場の大きな可能性

峰寿司を傘下に持つ持株会社 Japan Dining World Co Ltd は、先日、日本の焼き肉レストラン 焼肉ふたごを世界各国の料理が楽しめるアジアの食の都 香港にオープンしました

峰寿司は 2014 年、香港進出 10 周年を迎えました。昨年、持株会社 Japan Dining World Co Ltd の売上高は、日本の親会社の売上高の 1.5 倍超を記録しました。10 年前にはスタッフ 20 人だった同社は、香港で 250 人を擁するまでに成長し、日本の親会社の 2 倍の陣容になりました。2004 年、香港に初めて峰寿司をオープンし、職人が握る本格的な寿司を香港の人々に提供して以来、次々に店舗をオープンし、現在、香港では 7 店舗の峰寿司を営業しており、そのほとんどが大規模なショッピングモールの中にあります。

「香港での売上高は一貫して計画を上回ってきました。そして、常に事業拡大を視野に入れてきました。」と、Japan Dining World Co Ltd 社長 林昌純氏は述べました。「香港の人々の間で、日本食の人気は、益々高まっています。当社の戦略は、常に新鮮な素材を使い、高級感のある、職人が握ったすしを手頃な料金で提供し、お客さまに喜んで頂くことです。」

中国本土からの渡航者による需要の高まり

レストラン事業は、香港と日本の 7 人のパートナーとの合併事業です。林氏は、香港での飲食事業の成功の要因を、日本から直接本物の情報と技術を得たこと、更には、醤油などの調味料を厳選し、現地の人々の好みに合わせていることだと述べました。中国本土の観光客からの需要拡大も重要です。「顧客の約 10% は中国本土からのお客様です。中国本土からのお客様は、香港ではどこよりも美味しい日本食を食べられることを知っています。従って、高価な料理を注文します。」と同氏は説明しました。

他の寿司チェーン店とは異なり、峰寿司は、会員制は導入せず、また積極的な販促活動も行っておりません。品質と信頼性を重視したメニューを用意し、旬の食材を使ったプロモーションメニューも提供しています。同社は、中国本土への進出や日本での新店舗のオープンは考えていません。「中国本土市場への参入や日本での新規出店は容易ではありません。それらの市場では、品質よりも価格設定に照準を合わせた競争が展開されています。日本では多くのレストランが低価格競争に苦しんでいます。」と林氏は述べました。

新しいフランチャイズビジネス

香港では、美味しい焼肉店がまだまだ少なく、林氏は、かねてより日本の焼き肉を是非提供したいという情熱を持ち続けてきました。2 年半の交渉期間を経て焼肉ふたごのフランチャイズ契約を獲得し、香港での出店を実現しました。林氏によると、焼肉ふたごは日本で大きな成功を収め、3 年間で 20 店舗を展開しました。香港の店舗は、本年 4 月、銅鑼湾 (Causeway Bay) にオープンし、15 人の現地スタッフを採用しました。林氏は 2020 年までに、峰寿司と焼肉ふたごを合わせて、香港に 20 店舗の出店を目指しています。

Japan Dining World は、2004 年に日本商工会議所の紹介でインベスト香港のサービスを知りました。「インベスト香港の接客サービス・旅行産業部は、長期的なパートナーであり、ビザ申請などの諸手続きの迅速な対応、香港市場の最新情報のタイムリーな提供など、万全なサポートをしてくれます。」と林氏は述べました。「香港で築き上げた基盤をさらに強固なものにしていきます。そのためにも、あらゆる経営資源を集中的に香港に投入していきます。それが私たちの戦略です。」

Japan Dining World Co Ltd

- 峰寿司1号店は、1971年に熊本でオープン
- 香港では、峰寿司7店舗と焼肉ふたご1店舗を展開中

www.minesushi.com



香港で築き上げた基盤をさらに強固なものにしていきます。